



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 B 13 14 15 17 18 19



狂歌濱のきさし
()

特別
143
1-1



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6

利 9
14/3
卷 1-1

序



寛政再板

ありそ海乃濱のまゝとこと志して
よむとらにきあそこのそとらるあ
そとらるあそこのそとらるあ
仰ぐんべにあそこのそとらるあ
まゝとらるあそこのそとらるあ
いそとらるあそこのそとらるあ

門
歸
卷

つよふふう後の中流もなほ
たうそのまはるうのゆびもなほ
よりの後粟の産子形はたふると不
ふごのひよつこのまはるう乃場を
ら〜集つ〜あつるふ也
乙卯三の〜春の日 四方赤良

後序一

寛政再板

犯款し後のまきこ

犯款よ〜方引奇

寛政再板

- 一 四季の犯款 凡合三出
- 二 山家 引言言葉よを 二字三字
- 三 山家 日
- 四 閑居 日
- 五 田家 日
- 六 古寺 日
- 七 旅 日 東海道
- 八 述懐 日

| | | |
|----|-------|---------|
| 九 | 懐旧 | 引方系下七 |
| 十 | 釈教 | 同 |
| 十一 | 五常 | 同 |
| 十二 | 神祇 | 同 |
| 十三 | 祝 | 同 |
| 十四 | 礼方分款 | |
| 十五 | 又音 | 礼方依茶の書振 |
| 十六 | 假名遣 | |
| 十七 | 系系 | |
| 十八 | 堀川百首題 | |

貞如再誌

凡例

一 部類よりみかるといふことを終り十三三を
 筆てつ下未練乃二三子小亦とあるは粗略なり
 一 平生のたのしみ不仕くも至るぬる多しとて
 ことこれよりさへくひのそりきりいんたお
 ありくを豊くと論され事類とあるべし
 一 讀方そのなりあり後えとていんもわそのま
 くれと始とけるるありん道業内とある乳
 一 一と志とてまのらるるなりん礼收目抄
 一 惡同賢汪字涉横とて一と一と生紺屋朝子
 一 市命りといふその志とて

よき方の人ゆへ

一 形をとりたるえんの字えんのであつて先づ七
たふハ火種といふ題あり。すゝと。いけ。たあそ
ま。い。えん。と。い。ふ。と。何。の。を。い。ふ。は。い。か。考
ゆ。い。何。れ。も。趣。向。の。よ。り。さ。い。後。あ。り。い。か
火。の。の。外。成。考。へ。な。す。守。り。の。ど。れ。自。然。向
と。強。ん。て。深。く。考。へ。て。ま。傍。に。な。る。よ。り。い
う。け。れ。自。然。と。い。ふ。志。あ。り。か。ら。い。ま。の。ま。あ。り
考。察。し。ら。ね。ば。い。の。り。よ。く。い。か。た。あ。ま。な。り
い。ふ。い。か。考。察。し。ら。ね。ば。い。の。り。よ。く。い。か。た。あ。ま。な。り

世人の世をうけざるやきつるをせむ人

そはとりていせむるやきつるをせむ

一 ねがふ法なり。といふもあまをかりとよみかあ
式より人。い。ふ。ま。あ。ま。を。か。り。と。よ。み。か。あ
あ。い。つ。て。な。り。あ。い。つ。て。な。り。あ。い。つ。て。な。り
と。か。り。と。よ。み。か。あ。い。つ。て。な。り。あ。い。つ。て。な。り
あ。い。つ。て。な。り。あ。い。つ。て。な。り。あ。い。つ。て。な。り
ね。が。ふ。と。い。ふ。ま。あ。ま。を。か。り。と。よ。み。か。あ
このちりん。あ。ま。を。か。り。と。よ。み。か。あ。い。つ。て。な。り
か。い。つ。て。な。り。あ。い。つ。て。な。り。あ。い。つ。て。な。り

とて葉をり入る

寄本春恋

未得

うすささけちさりをとてあのをささく
こめりくとまろわくそろうま

とてみんもさあつきのかけ合のこぼれ
こぼれと何ん〜 向 こめ つまをさく
あわつくと言葉あをさくわくをさく

種といふ歌

あお

人の科あつさかおきく目ふこの

候二

わの身のわいれさうり志し

とよめぬもさうりまかけ合れを葉と
さあて 目かわり おりき かりぬさうり
さあて人の言葉あつてけり

んよあつさうりねあ

祈不違

貸之

あつさうりつとくけりぬい
ひとぬの種と人のりささく

冊子にはおろしき山見つぞんのおり
まゝにほろりしは是とてふより入るるを
いふべし尤そのいづよ解なる

一 地はゆるりぬやうにふしむへし古集も
まゝのあつたを 一 ちやまのよきみ屋げの
そつたをよみ 薪をよみとてまゝなる
阿のゆるりぬ地はゆるりぬとていふ
一 首上句下句とてよのゆるりぬ地はゆるりぬ
ゆるりぬ又一無なるへし 一 ちやまのよき
地はゆるりぬとていふとてなるやうにまゝなる

このなりぬは

偽名ちのいのことば

甲斐の海 甲斐のいなり

海のかいなり

逢ふ大 逢ふあふなり

大はおはなり

逢ふ王 王はまゝなり

逢ふのちうけけ 逢ふなり今日のちうけけ

逢ふのちうけけ 逢ふなり今日のちうけけ

逢ふのちうけけ 逢ふなり今日のちうけけ

逢ふのちうけけ 逢ふなり今日のちうけけ

逢ふのちうけけ 逢ふなり今日のちうけけ

おぼしめしちひとらざるべしなりかきまて
ねむゆ

一 題をとててんゆづきては上におかす題は
下におかす題の四は
上におかす

たては別々の題をきかてて下におかす
よみは別々の題をきかてて下におかす
そのなりはさうなるべし
そのなりはさうなるべし
そのなりはさうなるべし

一 遠慮をいふ言葉

餞別はたゆる言なり ありぬ

新宅はつごぬ火くわく

婚禮はいぬちゆりや

是より此かもんゆべし

落書解よむるべし

一 ねがみ無事とかくくく何り是は其序の
 真々一々のされは真の字は成用と書かす
 何やうもつた本はふえされもて序も
 真々ふやのねがみあまをいひくはよゆ
 且ぬそのなれは真の字は用ゆるべ
 されや ねがみ たれとくかけるがたは
 古と方と用ゆるべ
 一 本やどりのねがみ百そふ一そとおのべ
 一 ねがみの集を見合ふまゝなり古きを集は

長五

堀川百首狂歌集 三冊 八百首

古今夷曲集 二冊 浪華 行風撰

以内止丁余落丁あり

後撰夷曲集 七冊 七冊 二冊 再板 撰者 同前

吾吟我集 二冊 東都 石田未得

新古今狂歌集 二冊 二冊 元木阿弥撰

尤古き集より地はふらふらとねがみも所々あり
 三冊 地はふらふらとねがみも所々あり

古き集の肉少一又今季は

四季一

立春

梵益

かきくやむきふこわああ
いそ風のそやきふや

霞

山のーこ若やまきまき

鶯

欠徳

さるゆきをさるゆき

わくほけ強も一ぶ八らん

若草

春あけの雪れ中一な枝うら

柳

全

三味線乃さ保の川邊の糸や

櫻

教二

てんひんのくらりなうら

一アらんあゆも月よか

花

三月書

欠後

春のふゆのわづらひのいり阿蘇乃

更衣

実持

あはれおそくぬく人もやん

开花

貞徳

あはれおそくぬく人もやん

村鳥

体和

八七

あはれおそくぬく人もやん

葎草

浄治

あはれおそくぬく人もやん

御後

宗増

あはれおそくぬく人もやん

初秋

欠後

あはれおそくぬく人もやん

心ゆくもふのふ集あちち〜〜〜

七夕

あふれらこのあまのつらき山ちあふ〜〜は
さ〜〜〜人か〜〜の橋

蘭

貞徳

風のふり〜〜〜〜〜やぬち〜〜ぬ
む〜〜〜〜〜〜〜〜〜

月

未好

〜〜〜形き月の〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜〜〜〜〜

茶

あめでり〜〜の杯めぬよの茶乃〜〜れ
〜〜〜の〜〜〜〜〜

紅葉

成之

〜〜〜ら〜〜はひえのわやほ〜〜
〜〜〜ふ〜〜の〜〜〜

菅笠

未好

〜〜〜〜〜秋の〜〜〜〜〜
木の葉〜〜〜〜〜

初冬

雅長老

心はつりのある世なればかたかたなる
むんはつ神の身をこころをまじは

霜

行き

冬はくさくさともおそろしくすまのむらみ
あまのふもをほろりまほなる

子鳥

り風

まむらふ屏風のこころはれいほをさうれ
つこころはれし縁のせしむるを

あまのこころはれし縁のせしむるを

九十一

ゆたかむらむらとふりそかむら

歳暮

よみ人名

びんぼろ乃ちをりかひすおあうくあり
ありやうとされぬ年の考うあ

え

初恋

よみ人しん

足はあはれくさくさあまのこころはれぬ
人いこころをや恋と夕ぬ

見恋

酒粕

九十のあまむらむら人の足はれぬ

心そめくけりしに腰をわくことよ

悪恋

元信

志のゆきと秋とやせたりし悪恋
そのやうなわく人のちふまけ

違恋

こゝろ

あまこつねくく一とむはされと志あころを
あつていふ人といひいひあめ

待恋

顔真

らぬ人をよつよおそくと世話をまめく
あつてやちらん身とこられつ

長十

契恋

定留

君の今をまらけりしにこころを死にけ
いのちをとりしれは心ひたれけ

別恋

友知

鳥さかけいそるこころをたかく我もけ
あつてあまらるこころをわくの袖

後朝恋

未如

けれこころあまあれくはるこころを
こころをけりしと思ひこころを

恨恋

よき人あつて

こゝろ人にとまのユウ勝のこふまきしかり
まの島もこゝろのちつとししや

逢詣燕

田塚

ぬりはちしこころあんならうらとちやく
まの島の目も燕も海も能く

片思

実柿

あつたれもほれらん空のかうけり飛
あつたれしこころあつたれ

互思燕

幸男

かまけりこころあつたれけりけりまの

燕のまき荷はこころあつたれ

被志燕

一章

津極理のぬしりし形をなす
まの島も其のちつたれ君うれ

言致燕

こころ

鉄炮のこころあつたれ
鉄白おりのあつたれ

寄銀燕

長政

けりしこころあつたれ
あつたれこころあつたれ

寄勸意

こゝく

明ら世のこゆりありたうしつとくしつ
うたつとつとつわいさあけきうれ

寄借意

全

あさ人のけくさつゆりかひくそふ
なをきりぬれりしつらきそふ

寄指意

定秀

たのこけふと相の目かたれをやかさう
こしを福あつとこあき路や

寄塔意

未切

候十二

何の中も今もあつてくをゆりり
むさささりやれきこたりのと

○ 意の云葉よせ 五文字

| | | | |
|------|------|------|------|
| いさりの | いのひよ | いそふ | いよぞ |
| ふせりて | とつら | あきしか | あきろに |
| ちこりち | いせりよ | ワのあハ | いそふ |
| かひしし | かろつき | よささ | よふかき |
| ふえりよ | はつらぬ | つらさ | つらさ |
| はつらぬ | つらさ | つらさ | つらさ |
| あひりな | かた名 | かた名 | むささ |

花の海 ちりや ちりや
に 小けふき中 二世うけて ぬれ松 孫木
ほ ゐを布むひあー ちりや ちりや
へ ちりや中 ちりや
と ちりやのとき 年をくく思ふ ちりや
ち ちりやのとき ちりや
ち ちりやのとき ちりや
り ちりやのとき ちりや
る ちりやのとき ちりや

思ひありは 女車 思ひきくるん ちりやのとき
わ ちりやのとき ちりやのとき ちりやのとき
か ちりやのとき ちりやのとき ちりやのとき
か ちりやのとき ちりやのとき ちりやのとき
よ ちりやのとき ちりやのとき ちりやのとき
た ちりやのとき ちりやのとき ちりやのとき

た さまらん あれは信の祖長 ことや女らん女
れ ねんま そ そまかろんををよま神のこあは
それこのや そらん そまひらまき
つ つまらまき つまひらひ つままら つ
つ つまらまき つまきん けいむらつ
つむんめつまならんりつけのをを
ね ねやれ ねあま ねの系七々 ねまご
ねまのかき ねま ねまらまき ねてもあま
ねまのひまきん ねまらまき ねま
な きひくまの ねま ねまらまき ねま

長十八

ら ちうまき かねのさきけ さまごまなれね
かまきむらまき かねまきよらけてらるる神
ら ちうまき ちうまき
む むまきつむむまき むまきの神 むまき男
むのりやまき むの埋火 むのまき
お お居井の ねまの居えのん ねまのまき
や やまき ねまのまき やまき やまき
ま ままき ねまのまき ままき ねまのまき
まらつまき ままき ままき ねまのまき
はまらまき ままき ままき ねまのまき

けりうへ 煙のまゆ けりうへ
 ふりうへ 主婦 あつき中 ほきまひ
 ふりうへも橋 ふりうへも九も
 こらぬ夕へ 人の志をも ぬきまひ
 らもほくも 志やまひえ らもほくも
 志もほくも 人の志をも 志のふ
 人の志をも 人の志をも 志のふ
 て 志のふ 志のふ 志のふ
 ああ 志のふ 志のふ 志のふ
 ああ 志のふ 志のふ 志のふ

さ 志のふ 志のふ 志のふ
 さ 志のふ 志のふ 志のふ
 き 志のふ 志のふ 志のふ
 き 志のふ 志のふ 志のふ
 ゆ 志のふ 志のふ 志のふ
 め 志のふ 志のふ 志のふ
 み 志のふ 志のふ 志のふ
 え 志のふ 志のふ 志のふ

あられ さうふ あふさきそ せめて よこそ
志しし 刀さし じしやあぢい

山家三

まうこそ山あふそのとそあれつゝめ
んのらくとわふさやこ人

如丹

牛のさふ乃そこのぬ山ふすそ那う
かりくそしそおこれ合あう

山あふ世とのつれて山よふ
よろち山里ととよあり

柴の戸 志柴おそく 山考 志さつて
志どの何と戸山里 谷のあ 山おろし
つまたのた 山うけ 山のおく 山山山
推業 山まふこる 山てわり ちりちり山
山くらのそひ 人目かき 山山山山 山
こしら 山の戸さし 志柴の朝 かけひ
あけむのあ 軒をの書 草のあさ戸 山山山
松の下産 山の下産 谷そこ 山山山 山
山山山山山山山 山里の何とそく者

うきせの介れ宿

閑居四

政長

獨居の宿つりとりとくまきり火の
かけがらうしのと友とこそをせ
志つのある住居とよあり

○
かきむらう 蓮生 世と持るまきり 産の若
浪身よりく 人よりぬぬ宿 志つたさほぬく
そらぬ産 ぬきさやうた あきり宿 志つあ
人目かぬぬ ぶふ人もか

田家五

○
むきとさ人のとさぬ小田れかり産の
ろくむしあし乃まら産ありとせ
百世のさゆとよあれ

○
こむむらう 楢葉のまきり いるまのまきり 明子
崎子引 菊田 むつち田 山田 小田 深田
かき産の小田 小田れ産 子所田 こそまのまきり
のま田の産 あく田のらう 道の横田 田若引
田中乃高 山田守 林おさあ ねくまのりた

白河寺、年はもろやわらわし〜行くもろせふ
新築〜ふ〜まの昔のりうらね

古寺

三井 もろせ 三井山 とうらゝ急のそ井志燮
のまごふちうき昔 あま〜して 法の声ぬるほく
何のゆゑ あらふ〜たの都々まはの声 かく吹
又よむ家 善のなふり 法のまこと〜火

一旅七

猶彩

け〜身と宿が〜あま〜人是非ととよ

辰廿一

あさあをとかけきり 諸の夜子

入安

たうい〜あ〜も〜も〜ぶらもはりぬ〜
志のまよのかちり 諸い〜れ〜

旅衣 旅衣 古里 ちりよたより の風 嵐の松
影のつ〜ふ こと〜き宿 旅〜き〜こと 松 宿ま〜
磯松 ちり松 松と〜 いつれのま〜ち〜
け〜ま〜りの 舞〜の〜を〜新い〜ま〜 旅の浦〜
さ〜り〜さ〜あ〜ぬ〜宿〜ま〜きの〜れ〜

及いそく 龍森 名跡 三丁 浪 松子 松 龍 松
古里をくへるも 松のきも 三丁をむけ
龍 三丁 松のきも 三丁 松のきも 三丁 松のきも
をえ 又やかり程の 一松のやうり 志しぬる

東海道

日本橋ニリ 品川ニ 三丁 川崎ニ 三丁 神奈川 一丁 程谷 二丁 丁
戸塚 二丁 藤沢 三丁 平塚 六丁 大磯 四丁 小田原 四丁
箱根 六丁 鶴岡 三丁 沼津 三丁 原 三丁 吉原 三丁 蒲原 三丁 由井 三丁
真津 一丁 江尻 二丁 府中 二丁 鞠子 三丁 岡 三丁 若原 二丁 鶴岡 三丁

大井川 金谷 一丁 新坂 一丁 掛川 一丁 袋井 一丁 見付 一丁 天龍川
淡松 一丁 森坂 一丁 ありあり 森井 一丁 白次 一丁 一川 一丁 吉田 一丁
御油 一丁 赤坂 一丁 森川 一丁 恩崎 一丁 池郷 一丁 沼海 一丁 官 一丁
葉名 一丁 曾市 一丁 三丁 石原 一丁 石原 一丁 石原 一丁 石原 一丁
坂下 一丁 土山 一丁 水口 一丁 石原 一丁 草津 一丁 大津 一丁 草津 一丁

述懐

高江

海らへそ七きの膳とハ 高江を
そらそらのひびのむ川 高江を
そら中ハ 招子 高江を

香はくみのかうはくたのさや

うかこさあぐたぬおぬ思ひもをかたまの
ぬほくきせの年ゆき家のそつりてはくく世を
うらめし月日わがぬこちけまうあちまうく
むくもぬぬ老の最年をかきわて世もさぬぬ
老をかけたのうきぬ思ふあぬと道くくふぢうすい
むくいの月うたまはくとけれまき今うきんはうこの
捨すぬ身月うたまはくとけれまき今うきんはうこの

懐旧九

八安

かそら荷あらしうらえらけとこのうら
さささかささかささささささささささ

あつとのあを福し徳ぬ老の初むく
大むくくくくくくくくくくくくくく

ひくをぬぬふきささむくくくくくくく
思ふ世のあつとれすささささささささ
志のあつとれすささささささささささ
あつとれすさささささささささささ

釋教十

の風

三徳のりやあふれし針のふり乃
難けり苦りやをこけのり

思ふを

邪見なれ人のあふれ鬼まを
やうきまをくまを佛くれ

未ぬ

佛うも徳岸さくらの花よりけ
因年と核のふ手向なるべし

後世也

阿ののち 阿のの海 阿の道 阿のさるのち

阿ののちり 阿のの花 阿のの徳 阿ののち

阿ののちと 阿のの舟 阿ののち 阿ののち

阿ののちを 阿のの車 阿のの車 阿のの車

阿ののちみ 阿のの車 阿のの車 阿のの車

阿ののちみ 佛のの車 阿のの車 阿のの車

阿ののちみ 阿のの車 阿のの車 阿のの車

阿ののちみ 阿のの車 阿のの車 阿のの車

阿ののちみ 阿のの車 阿のの車 阿のの車

山伏

とらふけ 八めのとらふし さまん 空別杖 芝切
後ろ 貞採灯 ぬます くらり ころり かり けり 八をこ
うらふ

無常 十一

友信

ふきをのわらむをなけし 人ふめあし
えんくの五まん くらり けり 世の仲

友久

初夜 けらむと けりくま けり けり けり
けり けり けり けり けり けり

くらり けり けり けり けり けり けり けり

後の世 是やゆめ 思ひまや むらり けり
玉のど 赤い けり けり けり けり けり けり
とらふ山 くらり けり けり けり けり けり
る葉のま けり けり けり けり けり けり
空りまき 煙とまき けり けり けり けり
けり けり けり けり けり けり

神祇 十二

友知

けり けり けり けり けり けり けり けり
けり けり けり けり けり けり けり けり

人の世をかくさるる紀の浦に
埴原乃神や慈母をこゝれん

廻文

全

あゝ〜〜〜きけ〜〜〜たおのり宿岩のふれ
紫のち志もあふ〜〜〜けれたるゆへ

神してしせ 志め 神の玉 神風を排
ゆふあきき ゆへして か〜〜子玉をさる
ま〜〜〜りた〜〜〜 子もやぶ神 けりてさる

後 ころりき 志〜〜あだて〜〜あきこ 神世
ゆふの鏡 むさ〜〜の鏡 神垣 手向 ねさ
〜〜〜かけの 神〜〜れて神ハ 大文〜〜ら
こゝあるハ ゆつ〜〜ま〜〜 み〜〜後 小神 田
三角箱 みて〜〜〜 ころこの冥 六月 名〜〜の核
三つのゆり〜〜火い〜〜やこの鏡 い〜〜 麻ねさ
柳〜〜け〜〜鏡 ちりた〜〜も 神心 ち〜〜の
さ〜〜ん 福直 神さ 森娘 とも衣 子〜〜や
神子 神酒 かな〜〜〜 又の〜〜〜玉
八の〜〜〜ありあて〜〜中〜〜〜後 六根〜〜〜

いぶらぎの神 一とねの神 一とねの神
みづの神 一とねの神 一とねの神
せむしの神 一とねの神 一とねの神
さくしの神 一とねの神 一とねの神
たらのしの神 一とねの神 一とねの神
あゆみの神 一とねの神 一とねの神

^{イセ}磯ののり ^{イセ}いせ川 ^{イセ}加茂社 ^{イセ}姫小まつ ^{イセ}萩のり
^{イセ}いせ川 ^{イセ}いせ川 ^{イセ}いせ川 ^{イセ}いせ川
^{イセ}いせ川 ^{イセ}いせ川 ^{イセ}いせ川 ^{イセ}いせ川
^{イセ}いせ川 ^{イセ}いせ川 ^{イセ}いせ川 ^{イセ}いせ川

イセ七

^{イセ}かみののり ^{イセ}かしののり ^{イセ}かしののり ^{イセ}かしののり
^{イセ}かしののり ^{イセ}かしののり ^{イセ}かしののり ^{イセ}かしののり
^{イセ}かしののり ^{イセ}かしののり ^{イセ}かしののり ^{イセ}かしののり
^{イセ}かしののり ^{イセ}かしののり ^{イセ}かしののり ^{イセ}かしののり
^{イセ}かしののり ^{イセ}かしののり ^{イセ}かしののり ^{イセ}かしののり
^{イセ}かしののり ^{イセ}かしののり ^{イセ}かしののり ^{イセ}かしののり
^{イセ}かしののり ^{イセ}かしののり ^{イセ}かしののり ^{イセ}かしののり
^{イセ}かしののり ^{イセ}かしののり ^{イセ}かしののり ^{イセ}かしののり
^{イセ}かしののり ^{イセ}かしののり ^{イセ}かしののり ^{イセ}かしののり

祝 十三

未

今よりの代乃 祝とらうらふ 祈んん
あひをうた 樹れ 松花のり

以く燈をかさ鉢くくけ手くくく
汲くもはきくくきくれ酒壺

利清

おきやうりく代 あしけくきくくけ いくく
おのえくくく 民の七世八代久人万代まで
光さぬくくり いくくくく 志さぬくくく
そくくくくくくくく 鹿上の山 君くくくく
手代くくくくくく 西きくくくくくくく 治くく
くくくくく代 くくくくくく 玉業くくく 四の海辭

さくし石のくくく祝の枝 燈の枝 色くくく
うハ代くくくくくくくくくくくくくくくくくく

分類 十四

山タリ 疎ー疎ー奥ー奥ーとーとーくくく
村ー疎ー疎ー松ー遠ーんのー思のー玉井の
枕くくく 海越のーくくくくく 井ー踏 若のくく
竹のくくくくくく ちりくくくのーくくくの眉
くくくくくく 松川のくくく 松山ー娘 炭電
くくくくくの 大井川 をくくく 宮本くくく 玉をくくく

谷の仙本 斧あきまゝ谷一とらちをけ本
しきまらる 志保集 河の西 洲壺 山男

樵夫 かけまらる けま本の名 柴のまの
うらふ山人うらまらる 谷川のつま本舟

竹 くれーなまよーさーいさ村一がこーまの
村一植さ ちんちの親まらなる たらうま けん
結じふー符おまほ 皇一よ二一ぬーけ君

後 本のしーとのあー三書あくういーしは
んさる みるさるいんさる ちんち さいけふ

馬 をまれのけの 月を くりけ 何け大はえ
うらげ 麻毛 くりけまじんま毛 ままどろ
むらまらまらまらまらまら 響まらか あま
あまら 切付くら 鼓かい 荷くら 小鼓 鼓 鼓
まらか 甲まら だらん ち市くら 馬 五月 音

鳥 村一夕一夜一友いれ一朝一山一月夜一

うられーやまめー海山ーやとな林まおがをそぞり

鷹 あー一秋ー海山ーのーさやまのーコウー

ろー一也ー志ふのー志ふのーんやぶさ小のり
多るふとろーをふさの終おらくる えたが物
みよりのつばと右の羽 左結 鷹也 ぬくわとり力草

雑鳥 何ふむみはくふくろくかもめあせ

むことりぬん志ふとろくが山くふく四くく
すこひささまめつとろ志ふと葉のそまこ

あこひとろさまひひひ川せとよる糸すあ
つとろとろさお目白ほぼらせまれい とら

雑獸 ひつぢちんぶさまほひむとぬ狼

かろねのつ猫 嵐いさらかろひ 狐あま
うさた ぬねまきむらうら力の志くもま麻

海 けり糸つり糸何々 塩るれ衣流うけ衣

塩るれあすまくも火 いさり火さふはめさあ
ろ免ああからぬ昆布すそりまろくせ火

いそーまばーを ぐうまろ 石からまきまき
らぐたかのうを あぢちをを さあ やうく
えどら いちろ ままら いあご いちあび ざこ

鶏 たまごを ゆへつげどり ぐうけ そろる
八ま つけさる 時成つる まう 純を 僅に

鶴 子を思ふーなー葉代乃声 おひひいら
ぬのー黒ー白ーなぐーひるーの毛ころを
これ一声まれうとまをひらる たづるれさる

龜 たぐるのーのーまへ 全乃ー 又のり乃ー
ふおろる 何やーまーのーの上なるふー浮本 どのー
いろうー

蝶 ちの初ー花まふーはふひ上相のー相ー後
鱗 ーのぬさぶふの糸 祓やつるー引糸 すろく
玉のあーるるーま ふまむ 下リー

雑虫 ぶむーあり 本ろーのー海川ー
いそー茶とーからふり ぼろろろー

ちかひーをよかりーまりくをききよーをいさくきぎ
そのわぶわぶくうらうらーかまきりーそのーをねー

橋 まくの棚ー夢の深ー雲の玉ー山峯のうけー
苔のつとー木のくきー波の深ー竹ーむの深ー
朽木のー山の棚ー井木の岩ー山吹 雲けうけー
玉のこーふー木のー行合のー七夕紅葉のー丸本ー
よこーそのー思ふくく 捨ねふかく くあのかそー

朝ーまきろめー採るー志ありーそて阿さる

夕 雲海のー日ー星のれをそれ 雲のそて
ーやまをさりーー ーそよんをき云 ーな

曉 ー掃のー玉くけー山ろーぬるれーおき

夜 ーさよすろーさー中ーうーそろ 丑の貝ふく
ぬんを ねんを おくごら 雲よくく 小秋高ー

昼 年の貝 昼森のそと ひろ中 ひとま 日中

雨の糸 ぬらみの 一日たり 軒の糸あり 志すこと
むらさきの 村あり 衣をさる かしら

烟 ぬらみの 朝けの 夕けの 立けさぬ
かびく 三ゆれの 立けさぬ

嵐 みまの 嵐の 嵐の 嵐の

風 あまの 嵐の 嵐の 嵐の

あまの 嵐の 嵐の 嵐の
思ふこと 吹く 谷を 嵐の 嵐の
嵐の 嵐の 嵐の 嵐の

雲 朝の 嵐の 嵐の 嵐の
嵐の 嵐の 嵐の 嵐の
嵐の 嵐の 嵐の 嵐の

笠 ころけのーの上 神ー 打るくーミー
ーのと 雪の花ー梅のかーつらーひらー竹ー
阿ー 松ーやまーかろー

簑 山をけーろれーろーのーら夜 神ー

夜 蝉の相ー五百をこーぬー忍ぶのーらせー
よハのーまけーうつー 秋さりーこまろー
さまけーろろーはるろのー ぼろろー四位
たらぬぬー山吹のぬー花ーのーつゆくーぬれ

こころのろーきねぬるてみくたつて 務の毛ー
とたろひーたーの毛ー送切ーかりー

袖 ーはろろ 子松のー天のぬーむろのーまぬのー

帯 老ろろー玉のーむらーこまのーいのー
井の下のひをまぬのー雲のろーめろろとけろ

糸 交りのー麻のろーかー糸くひのー七タ
ひとよ よろろ ーとろろ ー車 けろれ

挿 ころれのーはるろーの殿 玉のをー

龜のー玉ーゆれつまくー ゆきひめの
くしなり

枕 赤もー彩ー舞ー三々をのー袖ーさよーをー
つけのせー流ーあやのー氷のー苔のー草ー
流ー玉のー月のーむ房初不のー石のー雲のー
岩根のーさびのー嵐のー波ー夢のーくらー
かりーさびむーの塵ぬりー本ー糸ー

鏡 なつまのー氷のーほりーありーとくぐ
こく丸ー夏の花形おーくはー袖ーあつた

硯 暖暖石あまふとくさくさ 土佐の海石
をう流むくきた書石う **とく** 忠峯形

盃 玉のーあむをのーまのー小ー秋のーくむ
りのーめくさくさ 心流さす 何い まこと

車 カーセー水ー紫ー小ーやぶれー悲ひーか
かどりーまー宮のー風ー牛ーあつれーあえー巨輪
さび あちぬくさ **痛** かそのなあ そひ
簾 こまの あちぬく 玉ーふせ あ のー玉のーとーい

いとの縁百ふー一わーのー縄ー管ー玉ーしのさ

禁中

花の戸をそ 雲井のそー 法々たり

ささくーれかとの橘 そのまある 湯土のくく火

ささくーこのはらり九をの庭 萩の戸 一百お

ささくー竹の大内山 玉のうてるなうーつ不 藤つ不

わー後の障ふ 南の殿紫の庭 あり井 所所

紫雲殿 清涼殿 内裏 せら 所 所

老 三あまごひ 考くく ちまき 茶の年 跡のを

よらむハ老ね 作きの庭 おまかさひ 秘さめ

庵

毎やのー窓ぬり 杉のー お葉のー 松のー

杉のー さあー 尾花のー かりふくー ありて 俣

ひさふ 尾本とりて 作ー 一 委のー 成おー

母ののー 刺植のー 山田のりー 山田のりー まげー

まごふくー よーれよー あり 膳のー なるのー

垣

一重ー 茶ののー 茶のー 一 せきさー 一 さー

小さくー 一 旁の八をー くらどー 志のー 一 梅のそけー

めぐりのー葎のー収 庵のー中ーくどー
と志ーこけのー根 世のー苗代ー園の何々
小紫ー袖ー若ーまらさ 唐ー速ーくさか

香 香爐 香盆 香札 折居 香箸 立焚 香
筒 出香 香色 香組 香をさく 記ろく 香をさく 箱
からまの 香をさく 香 香をさく 香 香をさく 香 香をさく
香 香をさく 香 香をさく 香 香をさく 香 香をさく
香名 志 香をさく 香 香をさく 香 香をさく 香 香をさく
まらさ 志 香をさく **密** **組香** 十炷香 八卦香

雪月花 五音香 小鳥香 小卒香 源平香
矢数香 名所香 いんしん香 蹴鞠香 競馬香

源氏香

紅葉賀 花の多ん あつひ さる本 花ちり里
源平 阿つー三城 蓬生 柳の葉
新秋 せきや 繪合 乙女 玉ころ 初音 小紫
萱 ことなる 火 形分 花幸 あらどる
芭持 梅くえ 菘のうら ころが 上下 かー本
まらさー 横笛 夕きり みのり まらさー

にふふや 竹川 紅梅 梅むらあけ巻 推が
さうさうひ やうさ 東屋 津波 舟けろく 手習
香言葉 はしり みてきくたく 落る
火を急 世を急 すり 鼻とあうさび

茶道 ちら合ろぢよとみあがりよりふろ
爐 ひろふ切 なるて きやうらて 茶抄
柄抄 ふくま 竹こるや 香爐 黒方ふくま
茶きんさうき ふくまはげん 茶せん あさ

茶入 茶碗 湯呑 茶巾 茶巾 茶巾
おびき おつご 風流 ぐら 面 ねあらの ねあらの
あざあろ ちりあろ 土風爐 香相 あらと及
ねとさな すまわ 切炭 掃きみ ごとく ごとく
白すま 竹炭 ねいり 四時茶 ちんや けい
かけへ 二けり 丸香茶 ちんや 短茶
ひろさき 大さき 茶巾 茶巾 てんさく
山炭 土いさ 小いさ 長いさ だつと 火びり
ごうご 羽帚 あさし せんさく ちんや ちんや
そごうり 口切 爐花 ちんや 丸きちんや 冥ちんや

花月千葉がね千
 (金) くらげの 四方 大徳寺 阿彌ぶどう
 なるの げ 四方 記 くらげ くらげ くらげ
 つりの海 ありな ありれ。くらげ
 (花入) かがりだ 尺八 せらぐ けさるび
 そせんご おんご ちん くらげ くらげ
 けと口 くらげ くらげ くらげ くらげ
 ぬの くらげ 葎山陳中 くらげ くらげ
 (茶碗) くらげ くらげ の くらげ くらげ
 かつらら くらげ くらげ くらげ くらげ

庚申

(茶) うもー 初むら ぼびう くらげ
 くらげの白 くらげの身 くらげの身

| | | | |
|-----|-----|-----|------|
| 春鶯轉 | 胡蝶 | 壹弄樂 | 溢金樂 |
| 万歳樂 | 賀殿 | 五常樂 | 飲酒樂 |
| 春喜樂 | 萬秋樂 | 秋風樂 | 青海波 |
| 延喜樂 | 酣醉樂 | 登天樂 | 太平樂 |
| 還城樂 | 想夫寔 | 夜半樂 | 長命女兒 |

千金女児 竹林樂 長生樂 千秋樂
 海青樂 越天樂 五德樂 昆侖八仙
 舞樂 納蘇利 陵王 拔頭 散手
 十二律 篳篥 チチウソウ 笙 シウ 橫笛 琵琶
ニハス 箏 和琴 羯鼓 左鼓
 鈸 鼓 琴 一越 平調 右方左方 樂屋
 右方左方 樂屋
 右方左方 樂屋

のめぐりゆ人とすし無多てすし成ふ極代
 天王寺住吉の樂人

笛 福より大べーさるんん あんこ 吹やうー
 かくうぐー竹の一ふー 一節切 こまー
 こちくの音ま竹多る 葦笛 牧童きー

太鼓 かなら 打上からふあいの打込打切らへま

鼓 ひまぶらふがら ほげとーこまてのびと

かいらぬきぢら三つぢらお上々打くーうらこ
えらぢぢら ちうへぢぢら 花がぢら 黒梅

琵琶 かくひく。たんまら 半の月糸 四緒ぢら
清山ひのな ぢく馬曲 流泉 啄木 三曲

琴 ちるれーかきるまー玉のとーあづまかー玉ー
朽く舟のーの音つまーやまーーぢらむせぶ
六猪根 ちらー結結 岩とけいよ木丸 凡 拍茶
天人さくぢ 珍角十三まらけいー廿五弦 まりぢ

三弦 ぢくま月いぢら 根緒 一ま海老尾 猿尾

弓 梓弓 あく木のーそりゆーぢらーあまーつれー
とらまー何まらのまーをゆー笛ーとやとせえ
あせ竹 ゆを急 押えを引るるるすゆけひま
らるすつるわろり月 志けぢらゆと三人より契
。揚弓ー場 度致 松梅 賭引 全貝ひく 塔中

矢 あまあら矢中、上まのーあつ羽のーかあ
ぢらーのぬあぢらかりまら二巻の羽 霜ふり羽

山鳥もどく大くりまきおのり根 矢さけむ

具足

丹の毛おじし小ざくろーひー緋糸ーわけき
社朋ー丸海老朋 桶側ー草きり小れ 寸糸あて
こて さのよきさよりひ糸ぞて 延けのこてせん板
兜あひの緒八幡ざく形さー物 就政の胃かー
見に目ひきしーもち付あさる 吹えーもちを おじ
四天取とん

腰物

ぬりこ ぶろカきびカされが 九寸五分 ころー刀
上ケあ のりこ だんびろかいふ さや あちかーら

目ねきさわ小つちかろぬこさの 較さやむねり
さげとこーらへどく 目行はらせつはほき 鴨め
さぐりころあろ 鯉口ろり取 ほるま そい奴

釵術

かくとろかざんおうち上ごん 二刀仕相口
あるへーろおりそ かまつはをせり ちみこけ
むくも ちしむ 川 うけたカ うらちカ
鍵くさりかきやり 十文ふやり 正やりつくこ
入身の子あひさひやり 袴下とり毛さや
長カこむち ながさ ぶろ 印く

十露盤 秘ずる義八元見一陽と云んたの入こざん
 玉九く見一五次他九一陽九一初下一陽一倍一二天作
 九二か二九三か二下畧一進一十九時を足してるべし
 一分一厘一毫けと天元術 四方七九開年用五
 目安くけりる月をらくこしひるさん用

ト 乾兌離震巽坎艮坤 乾為天 兌為澤
 離為火 震為雷 巽為風 坎為水 艮為山
 坤為地 手のまら 六十四卦 ちひらん 義本著
 过る 卦のト屋 男女相性 龜のうへ 八卦

國 あしらのこらわのやーやとー志と妙のー
 何あつらのかさあしーいづのあまのー 神のー
 やゆと志まね ころけー とまよー 花のー とまよーのー
 秋津ーれのころあつら はくらのーまひのー 備お使は
 そゆとこのー山信通よりすかのー衣のひさら 陸
 こをのあやー遠らろー地さあまのーうまのー何ひされ
 日ふむろのー船志とつふさかろふさ あひまのー うが
 まひのさるのーやまじら のー山 やま やまわのー 秋 まらのー こら
 のく 陸 たかゆのー こら 木のー か かく ま 葉よよあり

五音

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| わ | ら | や | ま | は | な | た | さ | か | あ |
| い | り | わ | み | ひ | に | ち | し | き | い |
| う | る | ゆ | む | ふ | ぬ | つ | す | く | う |
| ゑ | れ | ゆ | め | へ | ぬ | て | せ | け | ゑ |
| わ | ら | よ | も | ほ | の | こ | そ | こ | を |

狂歌旅草の書様

| | | | | |
|--|-----|-----|---|----|
| | 七又六 | 七又六 | 歌 | 名上 |
| | 七七 | 七七 | | |

ま成二ツ目
とり
とり
又四ツ目
二ツ七五
かふ
五ノ字七五
目
七五字

假名返

一頭字を父字くひ下の字は母字くひ父字は
 母行母字核を父母行合取の字くひ一
 字たり
 たを へん へん へん へん
 くの字父字のくひをふりえの字母字をよこふ
 仍有と後字の字けの字けりくえのくひけと
 父字をけりくえん へん へん へん へん
 志の字に父字の字母字
 くひこの字あり。志の字に父字の字母字
 同形に父母字の字の横に父字。母字の母字へかへるなり

○ 十人なりてあをを

^古ふにや神代もゆきと田川くらねるお水なるは
是ハ立田川くらねるお水なるはふにやあ
神代もききととよくりてあるさく

^古山黒ハをぞびいさすけうる人もあはれぬこ
是も人かちもあせぬとおもひばらさく
をぞさひさすけりけとあるさく
^古あひまやひあつたれおたうてあはれぬとせんと

山黒ハ

是ハしきりせんとはあひまやとよの一の白へ
りてあるさくまてあひまやしらやハく
さのくるヤハのさあるものえけたらひ一の白
へも二の白三の白四の白ありてあるもいと
あちくり又

○ 節々ぬ詞をありて詞を二字三字述す
うきりてあるさくへてあちくり

^古谷風おとる氷のひささあちくりはや去のさく花ナル

是はふとくひのや。よりかりてあつぬ初て。花と
あつぬもへある。と二字入てふとてあを八を
合てゆきと

古

大ら六月秋もぞ。是ぞひつりれは人の老とある物。十
是もぞ。よりかりてあつぬ初て。柳とあつ
とらへある。と二字入てゆきと。は格もつと
あつぬもへある。と二字入てゆきと。は格もつと
あつぬもへある。と二字入てゆきと。は格もつと
あつぬもへある。と二字入てゆきと。は格もつと

後四十七

堀川百首題 十六

春

立春

子日

霞

鶯

若菜

踏雪

梅

柳

早蕨

櫻

帰雁

春雨

夢野

喚子鳥

苗代

董

杜若

藤花

款冬

三月盡

夏

| | | | | |
|-----|----|-----|----|-----|
| 更衣 | 卯花 | 葵 | 郭公 | 苜蓿 |
| 早苗 | 照射 | 五月雨 | 橘 | 螢 |
| 蚊遣火 | 蓮 | 水室 | 泉 | 荒和板 |
| 立秋 | 七夕 | 萩 | 蘇 | 女郎薺 |
| 薄 | 荊萱 | 蘭 | 雁 | 鹿 |
| 露 | 五務 | 槿 | 駒迎 | 月 |

| | | | | |
|----|----|----|----|-----|
| 搗衣 | 虫 | 菊 | 紅葉 | 九月盡 |
| 冬 | 初冬 | 時雨 | 霜 | 霰 |
| 寒蘆 | 子鳥 | 水 | 水鳥 | 細代 |
| 神樂 | 鷹狩 | 炭竈 | 埋火 | 除夜 |
| 瘧 | 初至 | 惡念 | 不遇 | 後胡 |
| | | | | 初達 |

遇不逢 旅 思 片思 恨

雜

曉

松

竹

苔

山

河

鶴

野

關

橋

海路

旅

別

山家

田家

懷旧

夢

無常

述懷

祝

たも備れまふ所の敷あ敷まてあふふ
捨飛海つふてけり流きまごり
歌しき禮うこあらん初らの
まよまきみまきあ
こもあまのあやま
見くふ秋あまのあま
ふ人と福神一羽のたか飛つてふ

さかしの海にわたりてのこころを
かみはちたつたにたふし
ふくふくやうあはれ見ゆし
あめあまのこころ
あめあまのこころ
あめあまのこころ
あめあまのこころ
あめあまのこころ
あめあまのこころ

堀川院治良百首題

永文四年
未二月二十日

春

元日 餘冬 春日 甚曜 遊糸

賭弓

正月十八日天子弓場敷てを
清浥たるあり

春日祭 二月上申日

石清水除時祭

二月中十日
乙未午日

志賀山越

稻荷借

貫之集上延喜六年日次の候風子
二月卯午日稻荷借去るる所と云

未夏花

紅梅

落花

躑躅

雉

殘雪

蛙

夏

加茂祭

四月中酉日之りあると云ふ末の酉日

夏衣

夏草

瞿麥

扇

樹陰

避暑

夏虫

稻川

夏禰

蟬

蛙

秋

残暑

晚立

秋風

夕暮

八月十五夜

九月 宵 秋夜 曉月 嵐 稻妻

秋田 茶香 苔 柞 秋山

松虫 鈴虫 蒼

夕

雲 初雪・雪行孝 夕上 暮 竹 下

落葉 まつり 初分ふい 海 風 夕 夕 夕

「木のこころ」 木のこころをこころとて ちる木のこころ
「立田川」 のこころが ながるふが よるるうさねども
ねがふふは ちの葉も ともなふこと あれは ちのこころ
よるるふは 初捨の けらるるあるづー

五言 十月 中 世の 日 ちる あり 夕 上の せ 日 しく 舞 娘 八
おん こと 日 上 自ら 常 寧 舞 娘 けり とも 夕

推 け 糸 紗 新 衣 糸 巻 子 貞 細 天 下 小

佛名 三月十九日廿日之或二夜の倒も有之
舊年立春

忘

忍忘 終月忘 終年忘 隔夜忘
隔途忘 不見書忘 且見忘 寢覚忘

待人忘 別忘

雜

雲 星 出湯 石 山海 原
池 故郷 寺 社 柳
桂 小森 岸 之服 賀 七夜
管 唐人 玉露君 妓女 老人 泉師

船 隣 笛 箏 踏 踏 棹

右新の中「七夜はういすあひのこらよ
ふをわてあうい

「おまゝ」て七夜七日よありぬれだ
はよりういすあひのこらよ

「おまゝ」て七夜七日よありぬれだ
はよりういすあひのこらよ

うれふあまきんて七夜のういすあひのこらよ

あまのこらの中「七夜はういすあひのこらよ
ふをわてあうい
「おまゝ」て七夜七日よありぬれだ
はよりういすあひのこらよ
うれふあまきんて七夜のういすあひのこらよ
長明世のういすあひのこらよ

水香近副いりみ

水政

まを思ふよあちねくまの葉をゆれあて
ささしとせれちうとれもせさ

トバニヤノミ

けふあつらうしとせし務しき祐威法師をさえて
ちよひにまんとししうくあちめいさあめめを
えあちらうとせうのこまにまかちれあちく海
あふは海のまをちうらちのまをれいれを
まうくまのまをちうらあ一のまをちる

うらて考も枯葉をばらうらけてりくりか
らいとれがちほくそがうまあうりま
りれハまをちうらうらうらうらう
ちれあうら風あうらうらうら
ゆれあちちれまうらうらうら
れまうらうらうらうらうら
らうらうらうらうらうらうら
まうらうらうらうらうら

○お方の見え合ふまゝのまゝのわが
はる今ち枯新撰のわがまゝのまゝ
ありてそのまゝをいふまゝのまゝ

まゝ集 格

まゝ集 格

おのりりめ山をいふまゝのまゝのまゝ
ありまゝのまゝのまゝのまゝ

口

大

意 法 和 尚

おのりりまゝのまゝのまゝのまゝ
ありまゝのまゝのまゝのまゝ

格六

兔

孫 系 為 取

まゝのまゝのまゝのまゝのまゝ
ありまゝのまゝのまゝのまゝ

格

源 仲 正

まゝのまゝのまゝのまゝのまゝ
ありまゝのまゝのまゝのまゝ

格

寂 蓮 法 師

まゝのまゝのまゝのまゝのまゝ
ありまゝのまゝのまゝのまゝ

鱒

後醍醐院濟製表

あつ鱒ののちあれてはもあつ山
ちまもいさうはけいさうん

牛

あつ肉たる

ゆきこのしむ物めつものしつせ
島かたにありまきさうのよち

馬

あつ位あつ

あつさくくられはうち
あつさくくられはうち

七

瓶

藤系為瓶

花をさるるのあつりのあつり
うりけあつあつ人まうあつん

梨

信定新尺

あつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつ

あつ

あつ

あつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつ

西条

信守方御前

えんぶ西条のまぶらひしつらぎのしつらぎ
むけをえんぶをむけむらむらむら

日

七南門院御判衣

うづみまのまぶらひしつらぎのしつらぎ
うづみまのまぶらひしつらぎのしつらぎ

村

中野まき法匠

うづみまのまぶらひしつらぎのしつらぎ
あつれしつらぎのしつらぎ

源 仲 正

あつれしつらぎのしつらぎのしつらぎ
あつれしつらぎのしつらぎ

源

藤 系 為 光

あつれしつらぎのしつらぎのしつらぎ
あつれしつらぎのしつらぎ

猿 渡

俊 昌 云

あつれしつらぎのしつらぎ

あつれしつらぎのしつらぎのしつらぎ
あつれしつらぎのしつらぎ

幸

純 母

之

あらあいのふしきまきゆのうし衣
ふけをうけてそいそいそあつる

○ 純子

藤系山室あゆ

まのぶしはあぢらおくらうさうし
らの羽をうりやんよあつる

鳥

酸部門殿大備

あぐらうしあぢらうしあぢらうし
たふしうりあぢらうしあぢらうし

鳥

藤系山室あゆ

あぐらうしあぢらうしあぢらうし
起いでうれが月ぞあぢらうし

鳥

西行上人

あぐらうしあぢらうしあぢらうし
あのおぢらうしあぢらうしあぢらうし

鳥

信玄上野片

あぐらうしあぢらうしあぢらうし
あぢらうしあぢらうしあぢらうし

○ 鮎

指宿正公家

さくらん 鮎花の名ありけあけあけの

鯉

いづれ位知縁々

昔の中い流のしけはあつまきまじい

鮎

あまの内大臣

はらみちやまある中のとち章

鮎

後れと新片

秋風よはまきれあまのいので

漁老

源 仲 正

今いられあをうみまきまの老あひの

解字

あまの

あまのさむけしをまきくろく

ふの上ふあつて初めふあつて初めは里を以て

○上ふあつて初めは里を以て

物。トカク。イヨク

ま。モマタ

だふ。ナリト

あふ。アウ

あふ。ナセニヤウ

あふ。イダ

いふ。ナニドリシテ

いふ。モハハシ

くら。カタテニ

けふ。ナルホト

さふ。コトアタラシフ

さふ。あつて

まひて。ゼヒトセニ

サウハイフセノ

ともはれぬバ。ドウヤフスルト

あふ。ベシテモナク

なふ。ナニナカ。ナニジイ

ケツク

ま。ウレサヘアルニ

ま。ドク

やとや やよ コレノウ やと ヨウホド

○ ちんねく河の里流へ

らん。デアロウ。デアロゾ。つらん。タムデアロウ

めん。テシマウタデアロウ。たん。デアルデアロウ

さろろん ^{ツ子ノ} ちん ^{メベシ} けん。タフデアロウ ^{カ、フウグ}
スニ井ルデアロ ^{又バキ} タモンデアロウ

ぬい ちん テクシヨ てん。テオカウ。テクケウ

あり。テ井ル。ある。デアル。テニヨウ。テクレウ。テ井ヨウ

あり。ある。ガヤ ^{ニアル}。ありける。デアルコヤ

けり ^{タモノチヤ} ける ^{コガヤ} たり テアル

れりれる。りテ井ル。べー。ソウナ ^{ソウナヤウス}

おき テシマウタ

うま。カカナ
。デハアル
カキ

つ。テ井ル。タメグ
。ガクヂヤ。タ

ぬめる。テシマフタ
。ガシニナル

り。ム。ヤウスギヤ
。オハナムキジヤ

べこ。ソウチヤウス

け里海ハ女のこまよりりてツメウをまかりしとて
ふりしつてもうきヤハハ思われつてしつて
ぬるしつてもうきヤハハ思われつてしつてあるかの

そめハけ里海をあてらんぼ

おき
。ムハりさうらもあてけあつてしつて

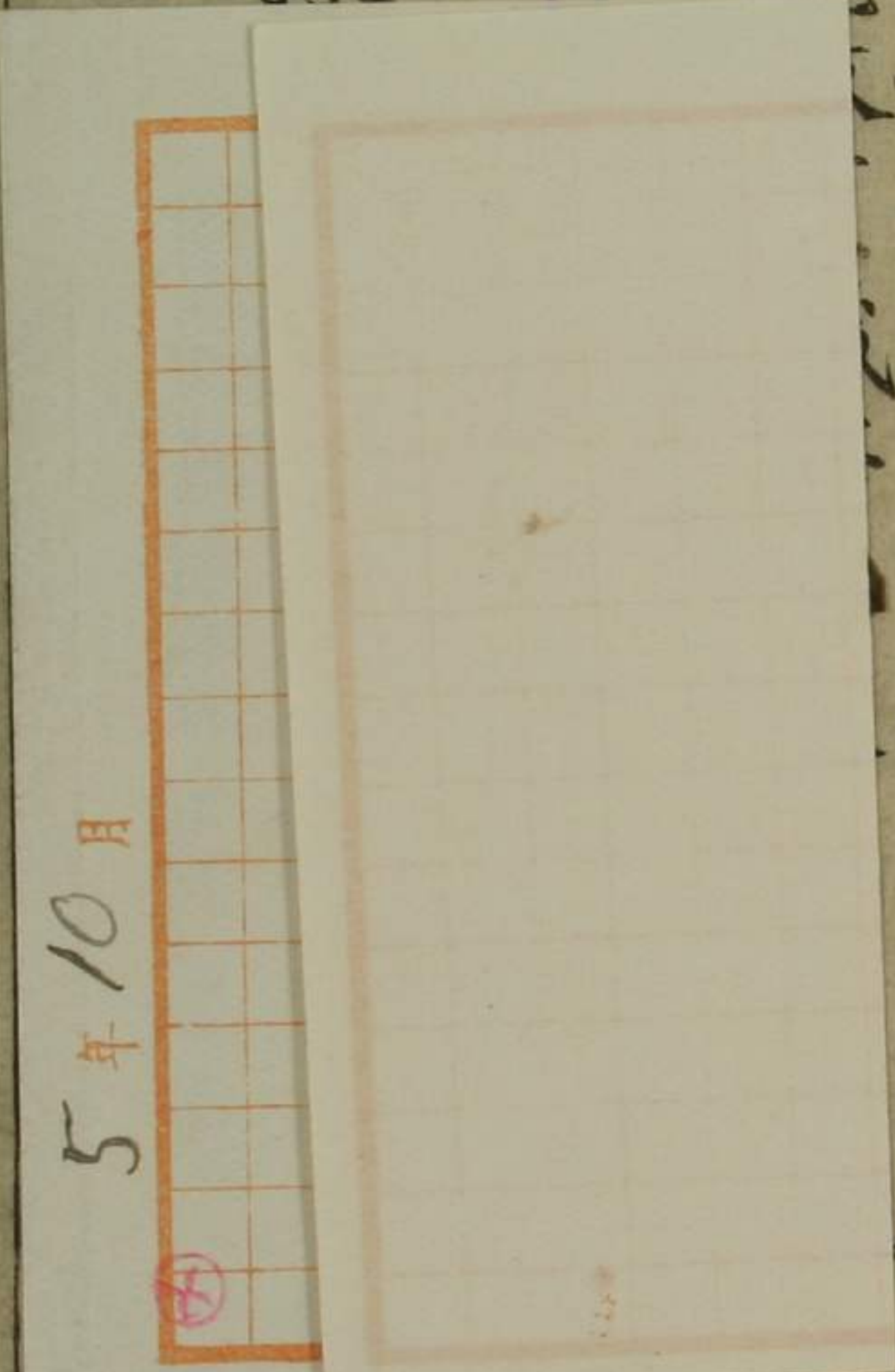
。そめどさうらの香は白しける
。あまうげよりけるちカもあるかのを

。サウつうのりるよけれをてらる
。うくのこまハ、まねをあてらんぼをこめよ

。あまうげしつてまねハ又ある人こまてしつて
。けれどさうらのあまねられよけれをこめ
。しつてあるかのしつてれどまらこまらけれ

天
明
三
歲
癸
卯
春
三
月
發
行

天
明
三
歲
癸
卯
春
三
月
發
行



5月10日

梓
野
門
明
郎

ト

狂
歌
詞
の
本
末

中本全二冊 五音のねりり 俗名づらひ
空網大人校 正して和歌の遊み六使あり

増
補

浪
の
き
さ
こ

中本 全一冊
元木阿弥公翁撰

先に出しとれきよかれき
あふ瓜集あふくまき本也

う
ぎ
の
衣

前編 全部四冊
後編

尾陽佛生也 有老人のね文
と集あけりききのねり

四
方
の
あ
の

四方赤良大人のね文 ね編等と拾ひ集め
全二冊 文章とつとつては引とれ

狂
歌
上
段
集

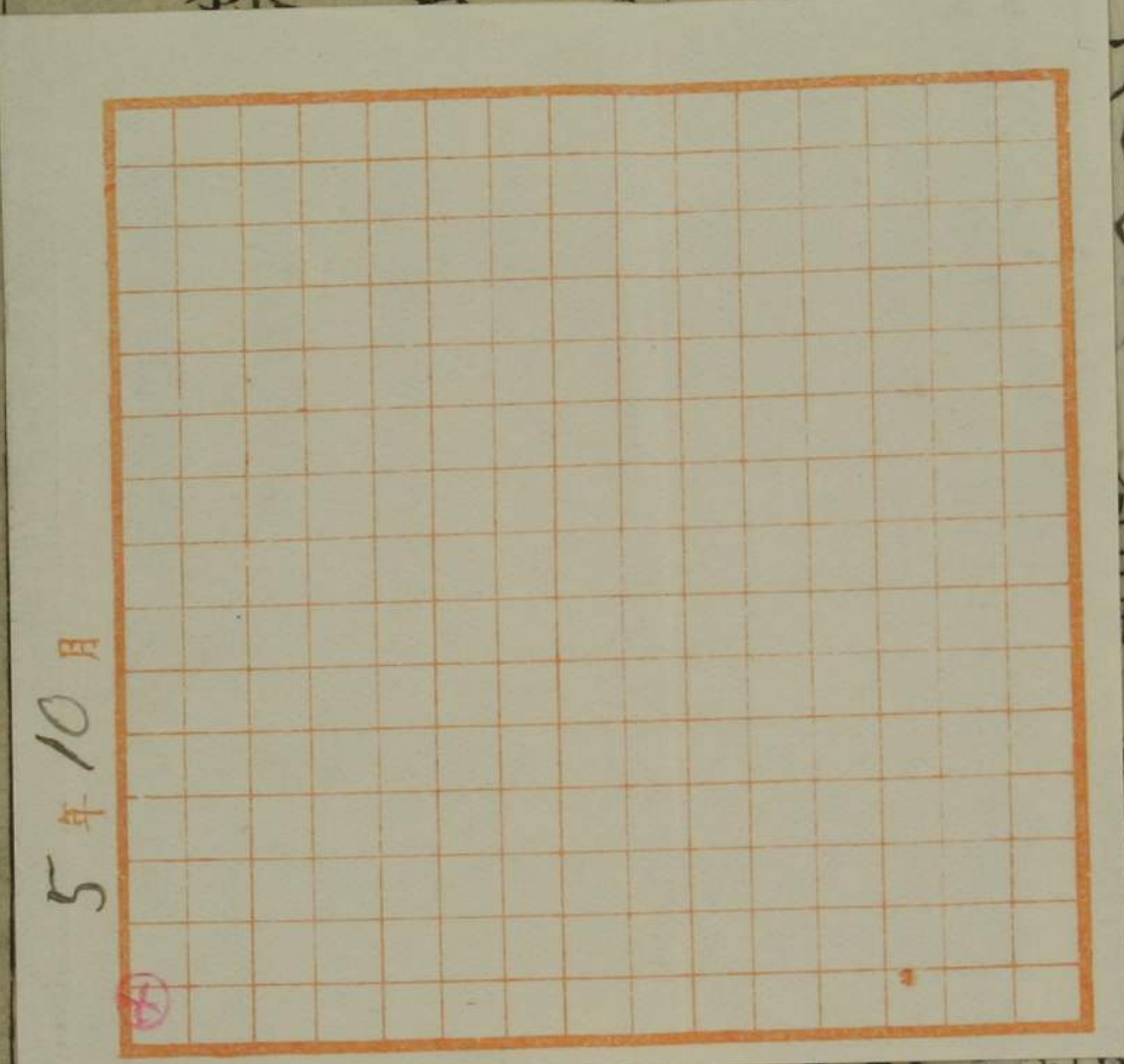
兼
補
廣
光
撰
全部二冊

同
晴
天
闌
歌
集

光
大
人
遺
書
市
人
校
全部二冊

後
半
一

林天書



5年10月

梓野門明郎

ト

ハ

四方のあとの

四方赤良大人のね文程編等と拾山集め

うごご衣

前編 全部四冊
後編

尾陽俳士也有老人のね文と集あけり考等のほり

増補

浪のきさこ

中本 全一冊
元木阿弥公翁撰

先に出しうれ考よりれりあふ集あけり考等のほり

狂影詞の本末

中本全一冊 五音のねりり他名づひ
壺綱大人校 正して和説と遊ふ六使あり

光大人遺書
市大人校
全部二冊

狂歌詞の本末

中本全二冊 五音のねりり他名づゑ
李烟大人校 正して和歌の遊りたる使あり

増補

淡のきとこ

中本 全一冊
元木阿弥公翁撰

先に出しとれきよわらわ
あゝ公集あゝくまきな也

うげん衣

前編 全部四冊
後編

尾陽佛土也有老人の和文
と集あけりき等のほり

四方のあゝ

四方赤良大人の和文和歌等と拾ひ集め
全二冊 文章とつとくは引とれ

狂歌上段集

栗根庵光撰
全部二冊

同晴天園歌集

光天園書
市人校
全部二冊

天明三歳癸卯春三月發行
寛政十二歳庚申春三月再板

書

尾張名古屋
大坂心齋橋唐物町

永樂屋東四郎

林

江戸日本橋南二丁目
同本町筋通油町

河内屋太助
前川六左衛門

葛屋重三郎

梓

ト

